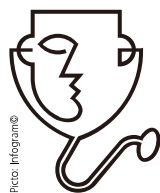


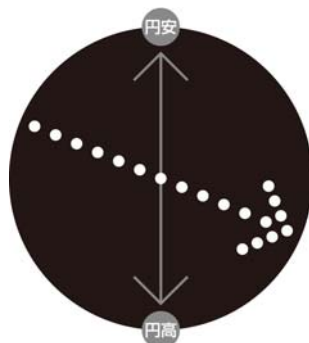
不安定な展開になる予感



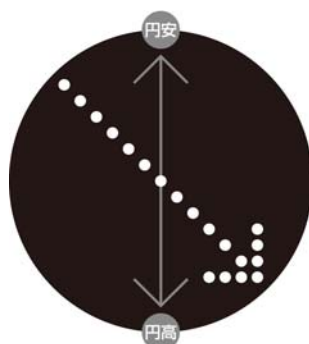
～マーケット・カルテ 2月号

シニアエコノミスト 上野 剛志
tueno@nli-research.co.jp

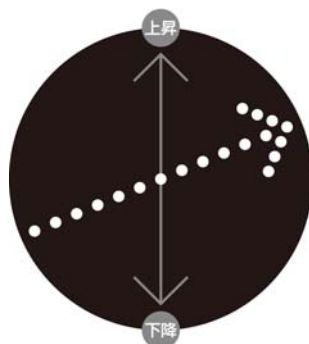
(執筆時点：2013/1/21)



円・ドル半年後の見通し



円・ユーロ半年後の見通し



長期金利半年後の見通し

1月の金融市場は、日銀による2%の物価目標導入や追加緩和期待から円安・株高基調が継続。長期金利も補正予算編成に伴う財政懸念から一旦上昇した後、緩和期待により低下している。ただし、これまで一本調子に進んできた円安も直近は要人発言によって乱高下するなど変化が見られる。円為替は従来、米経済や欧州危機など海外情勢次第という側面が強かっただけに、国内政治要因による現在の円安はいわば未知の世界であり、持続性への警戒感も強いとみられる。

2月はイタリアの総選挙というリスクイベントに注意が必要。また、米債務上限は短期延長される見込みだが、火種の先送りに過ぎない。一方で国内では日銀総裁人事が控えているため当面は緩和期待が続き、本格的な調整は避けられそう。しかし、その後は出尽くし感から一旦調整が入りやすい地合いになると予想。また、海外からの批判拡大も円安に対する逆風となりそう。以上より、半年後のドル円相場は現状比でやや円高と見る。ユーロは世界的なリスク選好の中で上昇しているが、過大評価されている印象。実体経済の厳しさや南欧情勢への不安から次第に修正され、半年後には対ドル以上の円高を予想する。

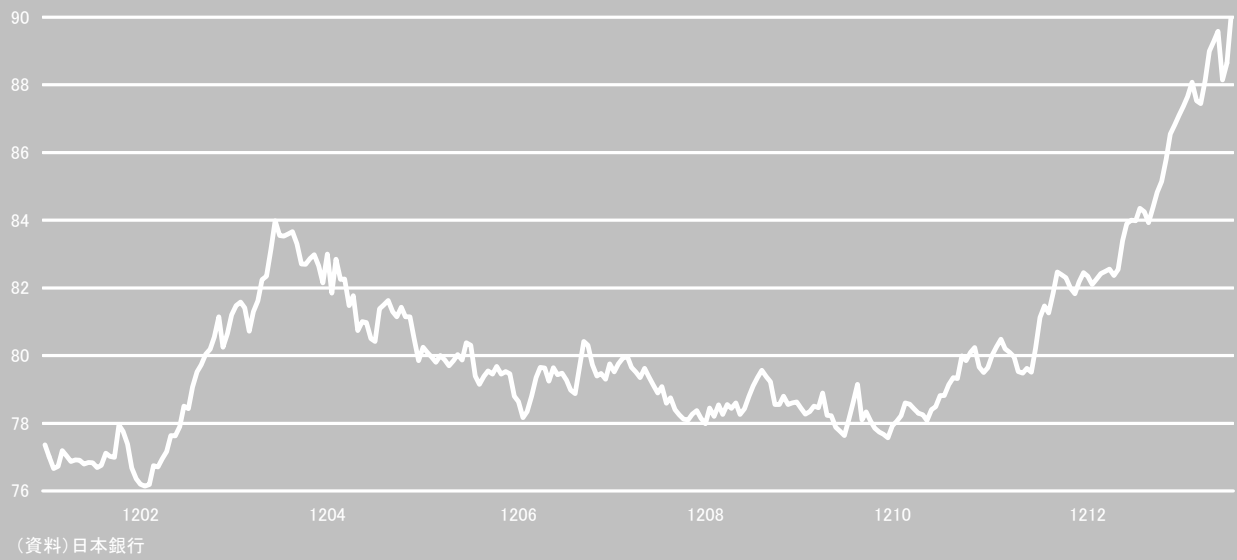
長期金利については、半年という時間軸では、米国経済の持ち直しに伴う米金利上昇につれて緩やかに上昇すると見ているが、金融緩和期待という金利低下圧力と財政懸念という金利上昇圧力が並存しており、局面ごとの力関係の変化によって、安定感を欠きそうだ。



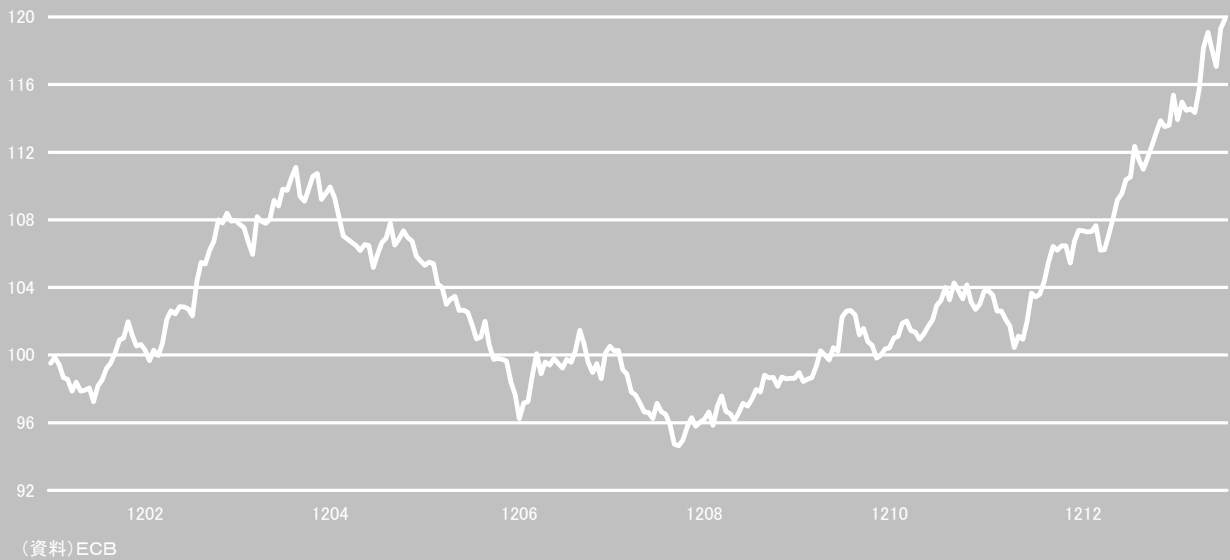
うえのつよし |

1998年日本生命保険相互会社入社、2001年同融資部門財務審査部配属、2007年日本経済研究センターへ派遣、2008年米経済調査機関 The Conference Board へ派遣、2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

円・ドル為替レートの推移（直近1年）



円・ユーロ為替レートの推移（直近1年）



長期金利（10年国債利回り）の推移（直近1年）

